

翻訳にあたってのヒント

その5

1. “So be it./ Be it so./Let it be so.” の訳出パターン：

(あきらめ・承諾) ままよ。/それならそれでよし。/それはそれよ。/ (あきらめて) そう
いうのならそうだろ (う)。/それなら受けて立とう (と)。/ (断念) それならそれでいい。
/なるようになれ (と)。/それでよろしい。/それはそれとして。/そうあれかし。/そうあらし
めよ。(=Amen.) / それはそれでしかたない。……他。

2. “zero(-)tolerance” の意味：

[研究者リーダーズプラスより]： ‘形容詞’ <規則などが>許容度ゼロの、どんなに小
さな[違反]も許さない、容赦無用の

私用メモより： ‘名詞’ ゼロトレランス、まったく情状酌量を認めない政策

※ 以上の観点から今回の「have zero tolerance for ...」の訳を「～に対して断固として情
状酌量の余地をまったく認めないようにする」と訳出したわけです。

3. 「ご出席」の類語：

先日、“We cordially invite you to ...” という招待状に使われる決まり文句を訳した時に
いい訳し方はないかといろいろと辞書を当たったところ、この文章を様々に訳出するこ
とができるということを見いだしました。その要となったのは、以下に記した類語です…。

ご臨席/ご来場/ご参列/ご列席/ご参加/ご来訪/ご来臨/ご来駕/ご光臨

訳 例：

1. ご臨席の栄を賜りますれば、この上ない幸せと存じます。ここに謹んでご案内申し上げます。(これは英語と比べてくどいように思われるかもしれませんが、'cordially' に「心から、誠意をもって、真心こめて、腹の底から」という意味がある他、'cordiality [U]' に「心からの気持ち、誠心誠意、真心、至情、暖かい友情、思いやりのある気持ち」、(pl)-ties の形にすると「真心あふれる言動、親切な言葉、真心をこめた挨拶、思いやりのある言動」という意味があるため、決して大げさな訳ではなく、むしろこれらの意を汲んでいることと日本語の慣用にかなっているということで適訳だと自負しております。)
2. 皆様のご来場を心よりお待ちしております。
3. (〇〇祝賀会・披露宴・パーティ等を来たる×月×日▽曜日、午後×時より×時まで、××会場において開催いたしますので、) ご来駕賜りたくご案内申し上げます。
4. (カクテル・粗餐等) をさし上げたく、〇様のご来場をお待ち申し上げます。
5. (カクテル・粗餐等) をさし上げたいと存じますので、なにとぞご来駕賜りたくご案内申し上げます。
6. (カクテル・粗餐等) をさし上げたく、〇様のご来場をお待ち申し上げます。

7. (いろいろとお忙しいとは存じますが、) お繰り合わせのうぜひご出席ください。
8. (なお、ご多用中恐縮に存じますが/ご多様中まことに恐縮ではございますが、) ○へご参列賜りたく (△会場へご来駕のほど)、お願い申し上げます。
9. 万障お繰り合わせの上ぜひご光臨の栄を賜りますようご案内申し上げます。